

## 江 山 正 美 (えやま まさみ) —————

明治39（1906）年11月山口県阿東町に生れ、山口高等学校を経て昭和4（1929）年東京帝国大学林学科へ入学、造園学を学ぶ。卒業後石川県立松任農学校に奉職、その間の個人研究が認められ、昭和14年日本林学会白沢賞受賞。同15年より厚生省体力局（後、健民局、衛生局、公衆保健局などに改む）など国立公園行政畠を同29年を歩く。都市計画分野への関係は、昭和21（1946）年から2年間戦災復興院の造園技師として従事するようになってからで、「都市森林緑地計画案」（「公園緑地」9(1), 1947）,『樹木と私たち』（中央公論社ともだち文庫, 1948）,『みどりの日本』（全日本観光連盟, 1953）などの論文や著作を出して敗戦直後の日本の国土緑化や緑の都市づくりの意義と方法を訴えた。昭和29（1954）年厚生省から栃木県の商工部觀光課長に転じ、



## 進 士 五十八

(東京農業大学教授)

た。江山造園学の基調には、樹木に代表される自然と都市に典型の人間との基本的な関係如何にあるべきか、との問がながれていた。従って自然公園・観光計画や自然保护分野の業績が主流ではあったものの、都市計画にも関係する論述も少なくない。なかでも「環境植栽形態に関する科学的研究」（「農学集報」（特），1961）,「都市と樹木」（柳田国男編,『新しい国語』中学1年下, 東京書籍, 1962）,「理想都市への提言、都市の公園緑地にかけるビジョン」（「公園緑地」26（1・2）, 1966）,「環境計画の科学、造園学」（「環境創造」3(5), 1973）,「都市と緑の論理」（「青と緑」1975・11）などの主張は、現在、盛んに論議されている“都市の緑”に関する本格的論考の魁をなすものである。日本造園学会賞受賞論文「現代の造園形態に関する研究」（1953）でも、東京農業大学よりの農学博士学位請求論文「樹木の美形態に関する科学的研究」（1961）でも、その方法論上の特徴は長らく行政官生活を経ているにもかかわらず“観念的思考”傾向が